

ノロウイルスによる感染性胃腸炎に注意をしましょう〈第3報〉

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、冬期から春先（主に11月～3月）にかけて流行（冬の食中毒）します。ノロウイルスは感染力が強く注意が必要です

（症状）

1～2日の潜伏期において吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱（37℃台）などが出現する

（感染経路）

- 1) 感染者の便や吐物中のウイルスが手を介して口に入る
- 2) 吐物が乾燥して、ウイルスが舞い上がりウイルスを吸い込む
- 3) ウイルスに汚染された手で調理した食物を食べる
- 4) ウイルスに汚染された二枚貝を生または不十分な加熱処理で食べる

（予防法）

- 1) 手洗い・うがいを徹底する（排便後、調理前後、食前）
- 2) カキやシジミなどの二枚貝を調理する時は、中心部まで十分に加熱する
（中心温度85℃、1分間以上の加熱）
- 3) 吐物はマスク、手袋を着用して速やかに処理する
- 4) 汚染した衣類や床の消毒には家庭用漂白剤を約200倍に希釈して使用する

（治療法）

- 1) 症状があれば脱水に注意し、早めに医療機関を受診する
- 2) 症状は1～2日で軽快するが、約1週間便中にウイルスが排出されるので注意すること
- 3) 医療機関を受診後、必ず保健管理センターに報告すること